衆議院議員
自由民主党栃木県第三選挙区支部長　やな 和生　43歳

文部科学副大臣

《主な役職歴》
- 国土交通大臣政務官兼内閣府大臣政務官
- 農林水産委員会理事
- 国土交通委員会理事
- 経済産業委員会理事
- 外務委員会委員
- 決算行政監視委員会委員
- 科学技術・イノベーション推進特別委員会理事
- 総務会総務
- 農林部会長
- 国土交通部会長代理
- 経済産業副部会長
- 国防副部会長
- 外交副部会長
- 水田農業振興議員連盟事務局長
- 米の需要拡大・創出検討PT事務局次長
- 果樹農業振興議員連盟幹事
- 畜産・酪農対策委員会委員長代理
- 家畜伝染病予防対策検証PT座長代理
- 国土強靭化推進本部事務局次長
- 住宅土地・都市政策調査会事務局長代理
- 環境・温暖化対策調査会幹事
- デジタル社会推進本部常任幹事
- 社会機能移転分散型国づくり特命委員会事務局長代理
- 教育再生実行本部事務局次長
- 司法制度調査会幹事
- 経済安全保障対策本部幹事
- 安全保障と土地法制に関する特命委員会副委員長
- 北朝鮮による拉致問題対策本部幹事
- 領土に関する特命委員会幹事
- 情報・通信関係団体委員会委員長
- 国土・建設関係団体委員会副委員長
- 運輸・交通関係団体委員会副委員長
- 厚生関係団体委員会副委員長

やな 和生 事務所
〒324-0042　大田原市末広2-3-17　TEL:0287-22-8706　FAX:0287-22-8708

「文部科学副大臣」に就任

令和４年８月１２日に、文部科学副大臣を拝命致しました。
教育・ひとづくりは国の礎であり、「国家百年の計」と言われるように国政の根幹を成すものです。我が国の国力の源泉は、歴史的にみても、「人」であり、それをつくる高い「教育力」にあります。日本国の過去と未来の繁栄を繋ぐ、その基盤を成す部分を、今この時の文部科学行政が担っているという強い責任感の下、教育・文化・科学技術・スポーツの各所管分野の職務に全力を傾注して参る所存です。

副大臣室にて（上部の書「至誠動天地」は、栃木県旧佐久山町出身の豊道春海氏の作）

就任式での挨拶

就任式での職員への挨拶

副大臣を拝命した簗和生です。永岡大臣をお支えし、井手副大臣、伊藤政務官、山本政務官と協力しながら、文部科学行政の推進に全力で取り組んで参ります。義本事務次官をはじめ職員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

さて、まずは、本省所管の各分野で、日々、精励されている皆さんに心より敬意を表したいと思います。現場を取り巻く様々な諸課題、特に昨今は新型コロナウイルス感染症による影響への対応等に、大変な努力をされ成果を収められてきたものと思います。しかし、その背後にある皆さんの並々ならぬ苦労は必ずしも国民の皆様の目に見えるかたちで伝わっていないのかもしれません。そうした状況の中で、皆さんの心の支えとなり、皆さんを突き動かす原動力となっているのは、文部科学行政が有する崇高な使命というものにあると考えます。

私は就任にあたり二つのことを心掛けて参りたいと考えています。

一つ目は、「国家発展の礎となる文部科学省の職務に強い誇りを持つこと」です。霞が関の各府省庁は日本社会を形成する様々な産業などの各分野を所管していますが、それら各分野で活躍する人材を育む、すなわち、それら各分野の基盤形成における大本となるのが、教育等の本省が所管する行政であります。教育における重要な課題として、日本人としての誇りをしっかりと持った人材の育成が求められて久しいわけですが、そのためにはまず、文部科学省こそが、国家の発展や将来の命運を左右する、最も重要で尊い職責を担っている、そのことに我々文部科学省自身が他のどこにも劣らぬ強い誇りを持って日々の職務に当たらなければいけないのだと思います。

二つ目は、「過去から続く我が国の高い教育力を維持ししっかりと後世に引き継いでいくこと」です。教育に重きを置く国家は繁栄し、逆ならば国家は衰退する。我が国の国力の源泉は、歴史的にみても、「人」であり、それをつくる高い「教育力」にあります。本年は、近代的学校制度、いわゆる「学制」が公布されて百五十年の節目の年ですが、この学制以前、江戸時代には、藩校、私塾、寺子屋が全国各地に存在し、高い識字率に幕末日本を訪れた外国人が感嘆するなど、世界最高位の教育水準を誇り、それが明治以降の日本の近代化の原動力となりました。そして、教育に重きを置く国柄が現在まで受け継がれていることにより、今ある日本の繁栄や国際的地位があります。文部科学行政を取り巻く諸課題は多様化・複雑化しており、現場の苦労は絶えないことと思います。しかし、その苦労や汗は、必ず、今だけでなく、国家百年の計と言われるように、五十年先、百年先の日本の発展を支え、子々孫々の繁栄の礎を築くものとなります。日本国の過去と未来の繁栄を繋ぐ、その基盤の部分を、今この一瞬一瞬の文部科学行政が担っているということを深く肝に命じ、職務を遂行して参りたいと思います。

結びになりますが、こうした思いを胸に、情熱を持って、永岡大臣の下、文部科学行政を推進して参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

【「宇都宮大学」及び「大田原高等学校」を視察】

宇都宮大学は、５学部と大学院を設置している総合大学であり、全国の大学に先駆けて文理融合型の地域デザイン科学部や群馬大学と共同で共同教育学部を設置するなど、社会のニーズを踏まえた教育組織の再編にも積極的に取り組んでいます。当日は、ロボティクス・工農技術研究所を視察し、世界的にもユニークな空中ディスプレイの開発、イチゴの人工光型植物工場システムの開発、人との協働が可能な圃場内自律移動ロボットの開発など、研究成果を社会実装する取組について説明を受けました。また、それぞれの開発現場において、その技術を実現している仕組について活発な質疑応答を行いました。その後、群馬大学と共同で設置している共同教育学部の取組について説明を受けるとともに、宇都宮大学の関係の皆様との懇談を行いました。懇談の中では、同大学が取り組む文理融合の取組等について意見交換するとともに、これからの同大学に期待すること等をお伝えしました。

大田原高等学校は、令和元年度に初めてスーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）に指定され、「志と科学的リテラシーを育む文理融合型課題研究の開発」に取り組んでいます。当日は、同校がＳＳＨの指定を受けて実施している「ＳＳ探究Ⅰ」及び「ＳＳ探究Ⅱ」の授業で、自ら選んだ課題研究に熱心に取り組む生徒たちの様子を視察しました。生徒たちの課題研究のテーマは社会問題の解決につながるものも多く、課題研究の内容などについて生徒たちと積極的に意見交換を行いました。その後、栃木県教育委員会及び同校の関係の皆様との懇談を行いました。同校のＳＳＨ事業の取組状況の説明を受け、同校が教職員の素晴らしいチームワークの中で取り組みを進めている様子や、地域の皆様からの温かい支援を受けて生徒たちの課題研究が充実していることなどを伺いました。

今般の視察を踏まえ、今後とも、地域や特定分野の中核となる大学の振興やＳＳＨ事業をはじめとする高等学校における理数系教育の充実に取り組んで参ります。

【ICT・英語教育、特別支援学校、農林高等学校を視察】

山梨県を訪れ、韮崎市立韮崎小学校、山梨県立わかば支援学校、山梨県立農林高等学校を視察しました。

韮崎市立韮崎小学校では、小学校５年生の外国語の授業で、児童が一人一台端末を活用しながら英語でコミュニケーションを行う様子を見学し、関係の皆様と意見交換を行いました。

山梨県立わかば支援学校では、小学部から高等部までの知的障害の子供たちが学び、学校段階があがるにつれ成長する様子や、寄宿舎や食堂などの施設も見学し、関係の皆様と意見交換を行いました。

マイスター・ハイスクールに指定されている山梨県立農林高等学校では、シクラメン温室栽培の様子や果樹園、生徒によるブドウの選果・圧搾・糖度分析等の実習を見学し、生徒と一緒にブドウの破砕作業を体験するとともに、関係の皆様と意見交換を行いました。

今般の視察を踏まえ、今後とも、外国語教育や特別支援教育、産業人材育成の更なる充実に取り組んで参ります。

【G20文化大臣会合】

「持続可能な生活のための文化」をテーマに開催された「G20文化大臣会合」にオンラインで出席しました。

新型コロナウイルス感染症の文化分野への影響とそれに対して政府が行っている支援について紹介したほか、持続可能な開発関連での日本の文化政策の状況、持続可能な社会の実現に向けた文化面での国際協力の重要性について述べました。

【国連教育変革サミット】

ニューヨークの国連本部で開催された「国連教育変革サミット」に出席し、「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関するイベントにおいて開会挨拶を行いました。

各国代表との意見交換も行いました。

【文化政策に関するユネスコ世界会議】

メキシコで開催された「文化政策と持続可能な開発に関するユネスコ世界会議」に出席しました。

持続可能な社会の実現に向けた文化政策及び各国間における協力の重要性とともに、文化を基礎とした政策立案が国内外で進むよう、我が国としても取り組んでいく旨を述べました。

各国代表との意見交換も行いました。